# 立響楽信 46

2018.4
平成３０年春

立命館大学交響楽団・立命館大学交響楽団OB会
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
立響WEB　http://www.ruso60.com/
OB会WEB　http://rusoob.web.fc2.com/
OB会MAIL obsoumu.ruso@gmail.com

編集責任　立響OB会 常任理事 寺田 卓矢（2009年卒FI）

## ∮第119回定期演奏会に向けて

2018年度団長　小平 賢士郎

第119回定期演奏会に向けた練習が始まりました。春休み期間なので週4日、朝11時から18時までの練習です。今回の春定は、ウェーバーの「オベロン」序曲、日本初演のピアノ協奏曲「5 Elements」、そしてベートーヴェンの交響曲第3番というプログラムに挑みます。

4回生が卒団され、新4回生は多くが就職活動により立響をお休みされています。練習環境に先輩がいなくなったということで、若干の気楽さを感じつつも、頼れる人が突然（？）いなくなった不安が大きいです。練習予定の設定、練習部屋の確保、練習の主導などなど、いままでやってもらっていたことをすべて自分たちでやる必要があるので手探りながら頑張っています。

卒団生や他団体のエキストラの方が練習に参加してくださったり、4回生も忙しい日々の合間を縫って練習に来てくださったり、多くの人に支えられながらの練習スタートです。さっそく阪さんの客演日もありました。弦楽器の人数が少ないことに加えて、曲がハードなので、なんとかついていっているようです。

さらに、ピアコン「5 Elements」のソリストであり、作曲者でもある小野貴子さんにも衣笠キャンパスまで来ていただきました。仏教の五大要素をテーマにした曲ということで、曲のイメージや弾き方・吹き方について、譜面を見るだけではわからないことをたくさん伝えてもらいました。

3月はこれから、衣笠とBKCの卒業式に出演し、その後、春合宿を行います。団員一同、今後も楽しみながら練習に励んで参ります。皆様のお越しをお待ちしております！

### 立響の最新情報をお届けする Twitter等のSNSもご覧ください！

立響の情報は本紙のほか、ウェブサイトなどでお知らせしていますが、最新の演奏会情報や団員の近況、立響に関する話題をいち早くお届けするTwitter等のSNSもぜひご覧ください。

**Twitter**　@ruso_BOX410
**Facebook**　www.facebook.com/RitsUSO/
**Instagram**　ritsuso_official

立響オーケストラトレーナーの中橋健太郎左衛門さんがモデルのキャラクター「エモンさん」が立響の情報をつぶやくアカウントもあります。

**Twitter**　@emon_ruso

### OB会費のお支払いにクレジットカードが使えるようになりました

立響OB会費等のお支払い、ご寄附等について、2017年11月より、クレジットカードのインターネット決済がご利用いただけるようになりました。手続き方法の詳細はOB会ウェブサイトをご確認ください。

http://rusoob.web.fc2.com/

従来のOB会ゆうちょ銀行口座へのお振り込み、口座振替も引き続きご利用いただけます。

2025年の立響創立70周年を見据え、OB会としても活動の高度化を図ってまいります。引き続き皆様のご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

## ∮2018年度の活動について

2018年度副団長　野呂 隆太

2月18日に開催されたフェアウェルコンサートではブラームス交響曲第1番が華やかに演奏され幕を閉じ、2月末に行われた追い出しコンパで4回生が卒団され、2018年度の新体制がスタートした。早いもので2016年度に入団した我々も3回生となり、団の運営を担う中心回生として各々の務めを果たすときが来たようである。近年の立響は「地域に根ざした活動」及び「国内最高水準のオーケストラ」という2本の柱に基づき、2015年度の60周年記念東京公演、2017年度の広島公演といった地方での演奏会に加え、2014年度のオペラ「カルメン」全幕公演や2016年度のオペラ「リゴレット」の演奏など、立響の新たなブランドとして「オペラもできる学生オーケストラ」が着実に確立されつつある。また、今後は2019年度にオペラ公演が企画されており、逐次準備が進められている。

さて我々2018年度執行部は今年度を「変革の年」であると位置づけている。あいにく今年度には近年のような特筆すべきイベントはない。しかし我々はその期間を、これまでの演奏会を内省し、より高い次元へと昇華するための準備期間であるとし、運営面・技術面共にレベルアップすることを目指している。そしてそこで培った経験が来年度以降のオペラ公演、地方公演、果ては海外公演へと繋がっていく基盤となるだろうと確信している。立響をさらなる高みへと導くため活動していく所存である。2018年度の立響も是非ご期待頂きたい。

## ∮ロビー研修会の実施報告

2017年度ロビーマネージャー　平野 円香

2017年度ロビーマネージャーの平野円香です。ロビー研修会に参加し、お客様と接する仕事をする上で大切なことを教えていただきました。実際にホールのロビーなどでお仕事をされている方からお話を聞くことができる機会はほとんどなく、大変有意義な時間を過ごさせていただくことができました。ロビーメンバーは演奏会当日、立命館大学交響楽団の顔として活動しなければならないので、このように研修会を行っていただけたのは、本当にありがたいことだと思います。実際、学生の独学で積み上げてきたマニュアルが大半であったと思うので、お客様への対応として、疎かにしてしまっている部分が多くありました。しかし、今回のロビー研修会によってそういった部分を洗い出すことができ、ロビーマナーを考え直すことができました。研修会終了後、内容をまとめ、その後の演奏会に活用し、また、次のロビーマネージャーに引き継ぎも行いました。団員も次々と入れ替わるので、またロビー研修会のような機会があれば嬉しく思います。ロビー研修会に携わってくださった多くの皆様に厚く御礼申し上げます。

《ロビー研修会の実施について》

立響OB会 常任理事 寺田 卓矢 2009年卒Fl

2017年11月5日（日）に立命館大学 衣笠キャンパス内で実施したロビーマナー研修会は、演奏会でのお客様対応のノウハウを立響の現役生に学んでもらおうと、立響OB会が企画しました。企業の社員研修や文化施設・工場などの管理業務を行うサントリーパブリシティサービス株式会社（SPS）の講師をお招きし、立響の学生22名が2時間にわたり、座学と実習を交えながら、接客の心構え、お辞儀などの基礎的な動作、言葉遣い、チケットテイクの方法などを学びました。演奏だけでなく接客面でも一流の学生オーケストラを目指し、今後の継続的な実施を計画しています。（次回は5月実施予定）

## ∮第118回定期演奏会の報告

2017年度技術委員長　竹内 智哉

2017年度に学生指揮者と技術委員長を務めました、チェロパートの竹内智哉と申します。今回はこの場を借りて、今年度の冬の定期演奏会のご報告をさせていただきます。プログラムは校歌、ブラームスの大学祝典序曲、ラフマニノフのピアノ協奏曲第３番、ブラームスの交響曲第２番の４曲でありました。難易度、演奏時間ともに非常に重いプログラムではありますが、一つ一つの曲が熱さに溢れるプログラムであったのが特徴です。全曲ともこの場では書き表せないほど大切な曲でありましたが、特に立響にとって貴重な経験となったのが大学祝典序曲とピアノ協奏曲第３番でした。ピアノ協奏曲はピアノソロの難易度が極めて高く、学生オケで演奏する機会を得ることはまずないと言っても過言でない曲であります。しかし、今回は縁あってピアニストの森麻衣子様とともにこの曲を演奏する機会を得ることができました。森様と合わせて練習する度に、団員全員がこの曲を演奏できることの喜びを噛み締めていました。

また、今回の演奏会では、広島公演にて広島ジュニアオーケストラ様とジョイントし、校歌、大学祝典序曲、アンコールのハンガリー舞曲第６番を共に演奏しました。11月には立響から団員を派遣し、広島ジュニアオーケストラ様の定期演奏会で共に演奏する機会を得ることもできました。互いの演奏会で交流し合うことで、お互いにとって非常に大きな刺激となったと考えています。阪さん、中橋さん、森さん、広島ジュニアオーケストラのみなさんをはじめとして演奏会に協力してくださった皆さまと団員とで作り上げた今回の演奏会は、素晴らしいものであったと確信しています。

今回の演奏会を通して立響はまた一回り成長できました。関西公演は1,160人ものお客様にご来場いただくことができ、改めてご来場くださったお客様と、演奏会の成功に協力してくださった皆さまに心から御礼申し上げます。これからも立響をよろしくお願い致します。

## ∮第118回定期演奏会（広島）の報告

2017年度広報部長　大依 真惟子

広島公演の広報を担当させて頂きました、2017年度広報部長の大依真惟子と申します。

広島公演の広報活動におきましては、学園関係者の皆様や広島県校友会の皆様、そして立響OBの皆様をはじめとする多くの方々に多大なるご支援を頂き、当日は631名ものお客様をお迎えすることができました。改めて厚く御礼申し上げます。

さて、少し硬いご挨拶となりましたが、ここからは引き継ぎ書には書くことができなかった私の広島公演への思いを振り返りたいと思います。実は、2017年9月の校友大会に行くまで、私は広島県に行ったことがありませんでした。広島と言えば、8月6日のテレビ中継で平和記念公園を見るぐらいでした。「そんな広島に縁もゆかりもない私が本当に広島公演の広報なんてできるのか。」この思いは常に私の頭の中を駆け巡ります。でも、同時に次のような思いもありました。「将来、もし私と同じような境遇の広報部長がいたら元気づけられるようにしたい！」、「未来の立響につながる広島公演にしたい！」これが私の広島広報の原動力でした。「広報、集客は多くの人の苦労や努力の積み重ねがモノを言う」ということを、広報部長1年間の任期、そして何より広島公演の広報を通じて実感することができました。「客席に沢山の人がいる」というのは決して当たり前ではないのです。私が広島公演に向けてできたことは微力ではございましたが、未来の立響に少しでもつながることを願っております。

## 宮川和人さんを偲んで

立響OB会 副会長　佐藤 勝博
1975年卒Vc

昨年12月5日、立響の初代団長宮川和人さんが逝去されました。宮川さんは立響創団の中心メンバーの一人で、いわば生みの親です。その宮川さんが60数年前につくられた立響が、今や毎年の在籍団員が百数十名、卒団生は千名を軽く超え、阪哲朗指揮のもと『春の祭典』が演奏できるような学生オーケストラの雄に育ってきたというわけです。

宮川さんは立命館卒業後、長らくNHK洋楽部で活躍され、制作された数多くのクラシック番組は全国津々浦々に届けられました。後に知ったことですが、寄稿者のような年代の田舎者は宮川さんのつくられた番組でクラシック音楽好きになったのでした。例えば今の『クラシック音楽館』の源流ともいえる『NHKコンサートホール』では晩年体調のすぐれない解説者の大木正興をタクシーで迎えに行ってテレビカメラの前に座らせ、N響の番組を放送し続けたといいます。それは北村源三や千葉 馨や浜中浩一が在団し、岩城宏之がまだまだ若かったN響の一時代とも重なります。当時のNHK洋楽部には宮川さんの先輩格である三善清達さんも在籍されていました。また今も放送され続けている『名曲アルバム』、あの上質なクラシック啓蒙番組は宮川さんの企画が実現したものなのです。

以上のようなエピソードを出すまでもなく、宮川さんは数多くの音楽番組制作に関わってこられ、それは民間に移籍されてからも続きました。そして、NHKで、民放で、宮川さんの収録された映像と音は日本中に、あるいは世界に届けられたのです。想像してみてください。今、NHKのアーカイブには宮川さんの収録された映像と音がどれだけ残っていることでしょう。敷衍すれば我らの宮川先輩は日本の音楽文化の発展を陰で支えてこられた大功労者なのです。

一昨年春に体調をくずされたのは、丁度、ロームシアターのオープニング関連行事の収録で京都に来られていた時のことでした。それは阪哲朗さんが出演されたコンサートの収録でもありました。何か因縁めいたものを感じるのは寄稿者だけでしょうか。

享年83歳。生涯現役の人でした。ご冥福をお祈りいたします。

## 2018年度演奏会予定

■5月27日（日）　第119回定期演奏会
立命館いばらきﾌｭｰﾁｬｰﾌﾟﾗｻﾞ　グランドホール
（立命館大学 大阪いばらきキャンパス）

■8月28日（火）　サマーコンサート
立命館いばらきﾌｭｰﾁｬｰﾌﾟﾗｻﾞ　グランドホール
（立命館大学 大阪いばらきキャンパス）

■12月21日（金）　第120回定期演奏会
京都コンサートホール 大ホール

※日程・会場等は変更となる場合があります。最新情報は立命館大学交響楽団ウェブサイトなどでご確認ください。

## 記念品の贈呈

立響OB会では、2015（平成27）年度以降の毎年、卒団生と新入生に記念品を贈呈しています。卒団生については、現役からの希望に基づいて制作しており、これまでマグカップ、マウスパッドがありましたが、2017（平成29）年度はハンドタオルを制作しました。立命館のスクールカラーであるえんじ色に白抜きで入れられた「響き立て」の文言は、立響50周年誌『響き立つ』にちなむもので、これから社会人、大学院生などとして社会に羽ばたく卒団生へのメッセージとして、毎年記載しています。

新入生については、同様にえんじ色を基調としたオリジナルデザインのUSBフラッシュメモリを贈呈し、これからの大学生活に役立ててもらうこととしています。

2017（平成29）年度作成
ハンドタオル

2016（平成28）年度作成
マウスパッド